

女性のための情報誌

# NETWORK

NO. 20



## 目次

特集 家族とともに…	
◇変わる家族変わる生き方……………	2
◇家族の中でより私らしく生きる……	4
◇おんなとおとこで共に築く…………	8
ウーマンスクランブル……………	10
グループ紹介……………	12
国際交流のひろば……………	13
ねっとわあく らいぶらりい ……	14
ポプリ……………	15
ねっとわあく・10年—あとがきにかえて …	16



静岡県





# 家族とともに...

特別寄稿

## 変わる家族 変わる生き方

国立公文書館次長  
菅原眞理子

変わる家族

先日、扶養華族、残業廃棄物という新語をみて笑ってしまった。たしかに、現在の日本の家族は扶養されている妻や子の元気さと父・夫の影の薄さが目立っている。しかしそれは、一人一人の夫の責任、妻の性格というわけではなく、社会全体の大きな動きの中から生まれている現象である。家族をめぐる三つの大きな流れから、現在の家族が抱える問題、その中で女性がどう生きていけばよいか考えてみよう。

第一は、晩婚化である。女性の結婚は遅くなっている。平均初婚年齢は全国平均で二五・九歳だが、静岡県でも年々遅くなっていることだろう。二〇代後半で未婚の女性が多くなり、東京では五三・一%、静岡でも四割近くが未婚である。これは女性が高学歴化し、就業率が高くなったためでもあるが、

### ◆プロフィール◆

本名 坂東 眞理子  
二女の母  
〔職業〕 国立公文書館次長  
〔著者〕 「新家族の時代」  
「ニューシルバークの誕生」  
「変わる消費社会」など  
総理府で、婦人問題、高齢者問題、消費者の仕事に携わる。

女性と男性の結婚観・家庭観にギャップがあるのも見逃せない原因である。

男性は今までどおり、世話女房が可愛い女を望み、自分と同じような教育、職業をもつ女性と助け合おうという意識は乏しい。アツシー君、ミツグ君などといわれる男性達も外見のいい可愛い女性と遊びたいというのが本音で、結婚後も、女性の活動を支えようと考えているわけではない。

女性の方も、男性の意識が変わらないことを前提に、自分以上の能力、収入をもつ「上」の男性と結婚したいという願いが強い。ところが学歴一つとっても、女性の大学・短大進学率の方が高いという状況で「上」の男性は減っている。

男性の方も学歴、職業、収入、家族などにハンディがあると、結婚が難しくなっている。自営業の一人息子が四〇歳近くになっても独身という例は多い。

現実の女性の変化と男女の結婚に対する意識のギャップが解消されないかぎり、晩婚化はやまない。そして私自身は、結婚は何もあわててすることはないと考えている。無分別な若いうちに結婚し、子供が生まれてから離婚するより、

なので、余裕がないことも影響している。

幸福な人生を生きるためには、女性が家事・育児だけではなく、社会とつながりを持ち、職業にもついた方がいい。同様に男性も仕事だけではなく、家庭や社会と関わる方が幸福になるのではなからうか。

妻の就業は効率的な役割分業を見直し、トータルで生きる新しい家庭像を提示している。

### 長い人生―家庭を大事に

第三は、高齢化である。女性の平均寿命が一歳になり人生が伸びていることは、私達の家庭生活、人生設計をすっかり変えてしまった。

一人の相手と五〇年近く結婚生活をするわけだが、後半の三〇年近くは、もう子供が一人前になっている。父親、母親としてではなく、人生のパートナーとして助けあえる期間がそれだけ長くなっている。しかし、これは日本の夫婦の関係に新しいページを加える。

長寿は親子の関係も変える。子供が一人前になる前に亡くなる親は殆どなくなり、大人と大人の間の期間が長くなる。親は、子と

十分相手や自分について知ってかたゆつくり結婚すればよい。

ところで、晩婚化は、少子化の大きな要因になっている。平均寿命が伸びているので、三〇代の出産はまったく問題がない。積極的に成熟した女性が結婚、出産をしてほしい。

### ゆらぐ役割分業

第二は、妻の就業の増大である。九〇年の女性の雇用者は一、八三四万人だが、そのうち結婚している女性が約六割を占めている。

出産・育児で家庭にはいった女性達が、三〇代半ばからまた職業につきはじめる。この背景としては、景気がよくなり人手不足が続いたこと、パートタイマーなど働きやすい勤務形態が増えたこと、女性達の能力と意欲が高まったことなどいろいろの要因がある。いずれにしても「夫は仕事、妻は家事・育児」という夫婦の分業がくずれた家庭が多くなっている。このように妻が働きたすと夫に家事参加を期待する妻が増える。しかし、現実には夫は仕事だけ、妻は家事も仕事もという家庭が多い。それは夫の働き方が激しく、それこそ「残業廃棄物」になるほど

何もかも一緒、全部めんどうみてもやるという力はなくなり、ある程度の距離をおいたつきあいになる。

子供の数が少なくなっているのでも、親の老後の世話を子供だけ（配偶者）に頼るのも難しくなっている。むしろ、夫と妻がいたわりあい助け合い、それを子世代や公私のサービスが補うという形になっていくと思われる。遺産もどの子にも平等にとか、後継ぎにとかより、世話をしてくれた子に残す、時には施設や病院にという場合もでてくるだろう。

いずれにしても家庭や家族は、道徳や義務や必要性からしっかき結びついた集団ではなくなっている。一人一人が愛情をもち、お互いに手をさしのべあつてはじめて家族は家族となる。一人一人が意識して「家族する」ことが求められているのではなからうか。





# 家族の中で より私らしく生きる

社会の変化とともに、今、家族は大きく変わりつつあります。

核家族化とともに家族の高齢化が進む一方、子供の非行、熟年離婚、単身赴任等による父親不在など、家族の様々な問題が浮き彫りにされ、家族そのものの機能の変化が指摘されています。

また、他方では、女性の社会参加が進み、男女雇用機会均等法、育児休業法など働く女性を取り巻く環境も整備されつつあり、「仕事も、家事も」という女性が増加しています。このような変化の中で、家族や家庭の大切さを再認識し、家事や育児に積極的にかかわろうとする男性も少しずつ増えています。

しかし、女性が企業の戦力として取り込まれ、いまだに多くの男性が企業戦士として仕事に追われる現実では、育児、家事、老親の介護等が女性の役割という意識があるかぎり、かえって女性の負担は増加するばかりです。

このように、今、家族は様々な変化の中で、夫と妻、親と子のよりよい新しい関係が問われています。

家庭は、かけがえのない生活の場であり、家族が愛情を持って、お互いに助け合う、温かい人間関係を作ることが大切なのではないのでしょうか？

そして、その家族の中で、女性も男性もより私らしく生きているのでしょうか？

ここでは、三つの家族を紹介しながら、皆さんと一緒に「家族」を見つめ直してみたいと思います。

# 家族との

## ふれあいの中で

中伊豆町

大沼 美智子さん  
美代子さん



美智子さん 祖母きんさん  
長女 穂さん 祖父修平さん  
二女 由佳理さん 母 美代子さん  
父 計美さん

田園が一面に広がる静かな里の高台に、大沼さんの家があります。「四世代家族と一緒に住んでいるのは、町でもめずらしいそうです。」と美智子さんが、にこやかに話してくれました。

### ◆美智子さんのお話◆

八人家族なので、朝食のときに全員そろうと大変にぎやかです。家に祖父母がいてくれたので、二人の子供が小さいときから、私は勤めに出ることができたのです。朝は、母と一緒に食事の仕度をして、職場に向かいます。参観日などは、子供優先で休める職場を選んだので、子供が寂しい思いをしなくてよかったと思います。子供

たちは親思いで、私が疲れているときは肩をもんだり、食事の後片付けや掃除もしてくれます。

夫は役場に勤めています。休日は親子四人で出かけたり、農繁期には田の仕事もします。

皆がそれぞれ仕事を持っているので、父母や祖父母に楽をさせてやりたいことも、親孝行らしいことができないのが少し残念ですが、家族皆が健康で仲良く暮らしているのが何よりだと思います。

私は、長女だから家を継がなくては、と決めていたから、自然に今の生活になりましたが、娘たちには、資格を取って仕事を続けてほしいと思っています。大家族だと特に女性は大変です。娘たちには、「家を継ぐんだよ。」と言っていますが、どうなりますか。



美智子さん・肇さん御夫妻

### ◆美代子さんのお話◆

家族が皆元気なので、安心して仕事ができます。三世帯一緒だと経費がかからないのが良いですね。

たまには気まずいこともあります。孫たちが素直で明るく育ってくれたので、面白いことの方が多くてよかったですと思っています。

私は、夫と一緒に稲作と椎茸栽培をしています。朝から晩まで仕事が大変ですが、母が朝食の後片付けや洗い物をしてくれるので助かります。できることはしてもらおう方が、身体のためにも良いと思うので、任せています。

自営業の女性は、家事をして仕事もしなくてはならないので、大変ですが、それに報いる報酬と余暇があればやっていけると思っています。

夫は、優しくして仕事熱心です。椎茸栽培は、力仕事が多く天候にも影響されますが、品質の良い椎茸が収穫できたときの喜びは最高です。これからも協力し合って続けていきたいと思っています。

お話を伺っている間、御家族はにこにこ目細めて、うなずき合っていました。

美穂さんと由佳理さんが「大きいおじいちゃん、大きいおばあちゃん」と呼んで曾祖父母を大切にしている様子が伝わってきました。大家族の中で、思いやりの心が自然に育っているのですね。